

## 細る日本、膨張する世界

世界の人口が、遂に70億人に達しました。

国連人口基金では、先日（10月31日）生まれた赤ちゃんは、皆70億人目の赤ちゃんとして認定証を発行するそうです。

世界の人口は、国連の推計によると、1900年当時16億人だったものが、1950年には25億人となり、それが、20世紀の末には60億人に達しています。私が小学生の頃は、世界の人口は30億人と習ったような気がします。

特に、第二次世界大戦後は、地域紛争はありますが世界を捲き込むような戦争はありませんし、伝染病の予防など医療技術の発展や、バイオなど農業技術の発展によって食料の供給量も増えてきました。こうしたことを背景に世界の人口は増えてきたのだと思いますが、国連の予測では、このままいくと、今世紀中に100億人に達するといわれています。

一方、総務省が発表した2010年の国政調査の結果、日本の人口は1億2535万人、5年前と比較すると37万1294人減少しています。

我が国は、少子高齢化と共に人口減少社会に突入するといわれてきましたが、いよいよそれが現実のものとなりました。

65歳以上の高齢者も23.0%を占め世界で最も高齢化が進んでいる状況にあり、人口問題研究所の資料を見ると、2040年代に入ると総人口は1億人を切る事が分かります。

研究者の推計によると、日本の人口は、8世紀頃は450から650万人、1000万人を超えたのは15世紀以降といわれています。江戸時代に入ってから人口は伸び始めますがそれでも3000万人程度でした。

明治維新以降は、医療技術や食糧事情の改善などによって人口が伸び始めます。そして、日中戦争や太平洋戦争などを経験したにもかかわらず、戦後も順

調に人口は増加し、1967年1億人を突破します。この年は、東京オリンピックの翌年のことでしたから、日本が、青年期の若々しさを発揮していた時期といえるでしょう。

人口が多いということは国の力の源泉と考えると、人口が、高齢化しながら減っていくということに、国としての黄昏を感じないわけにはいきません。

世界の人口は膨張し、日本は痩せていくという感じですが、問題なのは、発展途上国での人口がどんどん増えていることです。

発展途上国では、5歳までに亡くなる子ども達が1000万人を超え、また、10数億の人々が1日1ドル以下で生活をしているといわれています。こうした貧しい国々、例えば、アフリカは現在10億人ですが、2100年には36億人に膨れあがるといわれています。

こうした発展途上国での人口増加は、先進諸国との間で新たな軋轢を生むことになりかねません。増え続ける国民の食料を確保するために、国同士が激しい戦争をする、というような姿は想像したくありません。そうしたことを避けるためには、今後、発展途上国での人口増加を抑制していくことが必要ですが、それは容易ではありません。

貧しさからの脱皮、十分な教育の提供、更には女性の地位向上、どれ一つとっても簡単ではありませんが、日本は、そうした分野でも、積極的に世界に貢献していくべきです。(塾頭 吉田 洋一)